

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 南曾根 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

##### 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

##### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

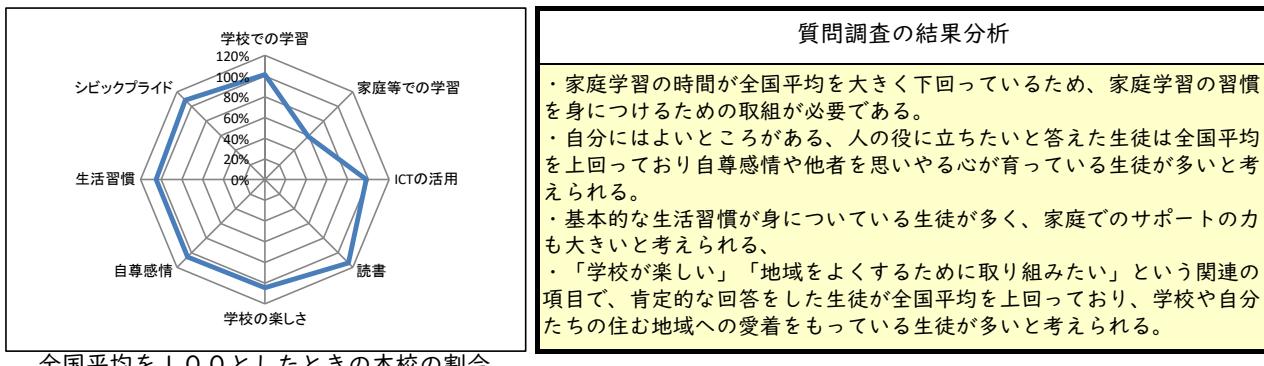
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」に関する問題について、平均正答率を上回っている項目が多く、読書への関心の高さが結果に表れていると考えられる。また記述式の問題の正答率が低く、書くことに関する苦手意識をもっている生徒が多いと考えられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「読むこと」に関する問題	
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと」に関する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	選択式の問題については、他の問題に比べて平均正答率が高くなっていたが、短答式・記述式で答える問題については正答率が低く、苦手意識をもっている生徒が多いことがうかがえる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「データの活用」に関する問題	
	努力が必要な問題	「数と式」や「図形」に関する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」を問う問題については、他の問題に比べて平均正答率が高くなっていたが、「思考・判断・表現」を問う問題については正答率が低かった。基礎的な知識は身についているが、それを活用して考える力が不足していると考えられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「生命」を柱とする領域の問題	
	努力が必要な問題	「地球」を柱とする領域	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・単元の最初に学習課題を設定し、自ら進んで課題解決に向かう姿勢を養う。
- ・ICT機器を活用して、協同的に学ぶ場面を多く設定する。その際、自分の考えや他者から聞いてわかったことなどを整理する時間を設ける。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習用のプリントやタブレットの学習ドリルを活用して評価・点検を行う。
- ・定期テスト前の学習指導計画表を丁寧に作成するとともに見通しをもって学習ができるように指導する。
- ・継続して朝自習テストや補充学習の取組を行い、家庭学習の意欲の向上を図る。